

司会：石野（通信制の課程 教頭）

1. 日時 令和2年1月29日(水) 15:00～17:00

2. 場所 大阪府立桃谷高等学校 会議室

3. 出席者（委員）

梅田和子委員長、福永光伸委員、篠崎静夫委員、仲村英理委員、大西啓嗣委員（本日欠席）、山口照美委員

4. 主な内容

- ・自己評価をふまえた学校関係者評価に関する事項
- ・次年度の学校経営計画（案）の意見聴取及び承認
- ・教員の授業その他教育活動に関する保護者の意見の調査及び審議

5. 説明・協議

定時制の課程 多部制単位制Ⅲ部

● 学校教育自己診断と授業アンケートの結果

授業アンケート結果は前期と大きく変化なかった。「あなたは部活動に楽しく取り組んでいる」の肯定率が74%であることや全体としても昨年度よりも高い数値になったことから、教員が授業づくりや授業改善に取り組んだことが結果となって出ている。

● 令和元年度の学校評価（案）

○確かな学力の育成及び教員の授業力向上

- ・ 教員向けの学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の肯定率が71.4%と、昨年度より大幅に上昇。「教員の間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率は昨年度より低下。
- ・ 生徒向けの学校教育自己診断「教え方に様々な工夫をしている先生がいる」の肯定率が84.9%、保護者向け「子どもは授業が分かりやすく楽しいと言っている」の肯定率が100%。

○キャリア教育及び進路指導の充実

- ・ 生徒向け「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率は昨年度より上昇。教職員向けの「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率は昨年度より低下。本来教職員のカウンセリングマインドについては100%であるべき。今後も改善が必要である。
- ・ 就職内定率は90%で、未決定の一人についても現在指導中。生徒向け「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」と、教職員向け「生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、系統的な進路指導を行っている」の肯定率は昨年度より低下。引き続き、取り組みを進めたい。
- ・ 保護者向け「学校は教育情報を保護者に提供する努力をしている」の肯定率が100%。ただし、キャリアアカウンセラーにおいては、夜の時間帯かつ不定期という条件で今後も引き続き継続していけるかどうか課題。

○豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

- ・ 生徒向け「学校へ行くのが楽しい」「学校は、みんなが楽しく行えるよう学校行事を工夫している」の肯定率が昨年度より低下。保護者向け「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」の肯定率が89%と、昨年度より20%以上上昇。
- ・ 教員向け「学校として生徒が達成感を得られるよう、部活動の活性化について工夫している」の肯定率が昨年度より低下。部活動に参加している生徒は高い割合で楽しく取り組んでいると回答してくれているが、参加人数が少ないという状況があるため、引き続き活性化に向けた取り組みを進めたい。

○学校運営体制の確立及び教職員の資質向上

- ・ 教員向け「各種会議が有効に機能している」の肯定率が低下。「各分掌や各年次間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の肯定率は大幅に上昇。
- ・ 「フレッシュマンセミナー」を実施。今年度は対象者を新卒3年めまでの教員として、4年めの教員についてはいずれかの会で講師を務めることにした。

● 令和2年度の学校経営計画及び学校評価（案）

- ・ III部は、令和2年度入学生から多部制単位制III部ではなくて、定時制の課程（夜間）という名称。
- ・ 「めざす学校像」及び「中期的目標」については、継続して取組むため、大きな変更はない。

○確かな学力の育成及び教員の授業力向上

- ・ 「桃谷授業スタンダード」を活用しながら、新学習指導要領を見越して授業改善を進めていく。

○キャリア教育及び進路指導の充実

- ・ キャリアカウンセラーについては不透明な部分があるため、「外部人材や外部機関を有効に活用する」と文言を変更。引き続き丁寧な指導、支援を行う。

○豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

- ・ 継続して取組む。

○学校運営体制の確立及び教職員の資質向上

- ・ 働き方改革として、日中の会議の有効活用や時間の活用などの充実を図り、教材研究等を行う時間を確保して、時間に余裕を持って業務に当たる。

● 「学校運営に関する基本的な方針」（学校経営計画のうち「めざす学校像」と「中間的目標」）について承認された

● 協議

1. 【意見】少し頑張れば達成できる目標を子どもたち一人ひとりにもたせる、友達や先生の力を借りながら少しずつ成功させ喜び合う、褒められて育つ自尊感情とともに自己有用感をもたしていく、この3つが今小学校で取組まれている。
2. 【意見】府内の小中学校の先生の有志を対象に、今、目の前の気になる子が25歳のときにどんな状態で現れてほしいかを、25歳から逆算して中学校段階ではこういうことした方が良く、小学校段階では

こういうことの方が良い、というワークを実施した。今子どもに対してやっている活動が功を奏しているかというところを見直して、明日からこうしよう、ということができればと思っている。

通信制の課程

● 令和元年度の学校評価（案）及び令和2年度 学校経営計画及び学校評価（案）

○通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立

- ・ 「将来構想検討チーム」は、目標値を超え、22回開催。充実した議論を現在も継続中。
- ・ 教員向け「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定的評価は63%と、昨年度と比べほぼ横ばい。
- ・ （1）「運営委員会を更に機能強化し、学校評価の実施を通して、業務の偏りや改革すべき諸課題について引き続き検討を進め分掌再編について検討する」を新しく追加。教員の働き方改革としての側面も含め、進めていく。
- ・ 教員向け「本校の教育活動や教育課程などについて、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定率の89.1%に対して、「職員会議をはじめ各種会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している」が32.6%と大きな開きがあり、日常的に話題にしていることが、会議の場で反映されていないとの結果が出ている。業務の偏りも含め、組織の在り方や会議の持ち方等について検討が必要である。
- ・ （2）のウ「新教育課程導入を見据えて、スクーリング出席管理システムの安定的な運用及び生徒ニーズに合った更なるシステム開発について、引き続き教育庁と協議する」については、おおむね良好な状態。教育庁では、令和4年度の新学習指導要領導入を契機に現在の「校務処理システム」を改修するため、この機会に通信制にも対応したシステム改修を要望してきたが、予算不足のため断念せざるを得ないこととなった。

○「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上

- ・ （3）のウ「学習意欲の高い生徒に対する学習支援策の検討・確立」については協議が進まず。
- ・ スクーリングやレポートの生徒評価の90%超えについては、教員の工夫・改善の賜物。今年度から指導教諭が中心となって、研究スクーリングの在り方を見直し、一部で教員間での共有が進みだした。
- ・ （3）のウ「全教員による学習意欲の高い生徒に対する学習支援策を共有する機会を持てたか。（1回以上）（新規）」に評価指標を修正。

○情報発信・広報活動の充実及び地域と連携した防災教育の取組

- ・ （2）の広報活動の充実について、学校説明会参加者へのアンケート「説明のわかりやすさ」の肯定率は96%。説明の内容や資料等は一定充実ができた。
- ・ （2）のア「大規模トイレ改修を見据え、安全な学校説明会となるよう実施形態を工夫する」と変更し、評価指標は今年度と比較できるよう、回数と参加人数に変更。

● 「学校運営に関する基本的な方針」（学校経営計画のうち「めざす学校像」と「中間的目標」）について承認された

● 協議

1. 【意見】学校はICTが遅れている。特に働き方改革の視点で行くと、効率が悪い。おそらく通信制は、ITとも相性が良いため、大胆に見直していくことが必要。大阪府の公立学校で唯一の通信制なのでこういうのも前衛的にやらしてほしいとか、こういう事例があるので試したい等要求して、みんなが楽

になる方法を考える必要がある。

2. 【質問】「働き方改革」が抜け落ちているとするなら、中期目標に入れた方がいい。どのあたりが該当するか。

【回答】中期的目標の『通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立』の（1）の「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」というのを働き方改革の指標にしたい。働き方改革をからめた業務軽減、業務の分担の仕方を抜本的にみんなで考え直さないといけない。意見共有ができて、その意見が学校運営に反映されるような仕組みがないか、来年一年かけて考えていく。

【意見】カエルための会議（小室淑恵氏の著作より）。自分たちが早く帰るため、そしてチェンジするための会議、カエル会議をオススメする。

定時制の課程 多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部

● 令和元年度 学校教育自己診断結果

- ・ 生徒向けアンケートの肯定率 80%以上の項目のうち、4・15・16・17・18 番が非常に高い。4「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」では、ICT機器（ノートパソコン、モニター、プロジェクター、iPad）をよく活用している。その他は、進路説明会、薬物乱用防止教室、人権HR、交通安全指導等の実施（コリアタウンにフィールドワーク含む）が反映されていると考える。
- ・ 保護者向けアンケートのうち、5・6・8・10・13 番については、何か問題や事象が起こった際の担任や担当部署の責任者等の丁寧な対応、SC2名、SSW1名での支援・教育相談体制、メールマガジン等での情報発信が肯定的に受け止められたものと判断している。
- ・ 生徒向けアンケートの「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」は肯定率 50%未満。いろいろな背景のある生徒もおり、本校ではなかなか難しいが、今後も主体的に学習させる方法について授業力向上研究チームで検討・情報発信し取り組んでいく。
- ・ 保護者向けアンケート 20「この学校の授業参観や学校行事などに参加したことがある」の数値が低い。検討が必要。
- ・ 共通する項目に関する比較についての考察として、「学校への意識」では、「学校に行くのが楽しい」の項目で保護者・生徒の回答がやや低い数値となっている。設問の適切性の精査も含めて検討が必要である。「学習指導」では教員は 100%、生徒は比較的高い数値（70%）となっている。

● 平成 31 年度学校経営計画及び学校評価（案）

○本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開

- ・ （1）保護者懇談の実施率を本年度は強化し、目標に達した。
- ・ （3）学校力向上のための職員研修の充実、外部研修に積極的に参加（5回）し、報告会は少し減ったものの情報共有した。MMP（桃谷メンター研修）で年間7回の研修を実施、肯定率は現在調査中（研修のねらいは達成）

○生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と進路指導体制の充実

- ・ （1）キャリア教育（「ももだにプロジェクト」による課題を解決するための能力や技術、コンピテンズ）については、令和元年度入学生の1年後のグラフは、上昇した。在校生の平成27年からの経年変化においては、自尊感情・自己理解等が若干高い傾向。
- ・ 現在、進路の未決定者率が42.6%。生徒向け「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率や進路説明会の延べ人数や参加者の肯定率の目標は達成している。
- ・ 生徒向け「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」の肯定率は上昇。生徒向け「授業で自分の考え

をまとめたり、発表することがよくある」は目標値には達していないため、課題。

○生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み及び人権教育の確立

- ・ 人権学習後の生徒の肯定率は97.3%と高い評価を得た。生徒向け「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定率も昨年度よりも5ポイント以上上昇して高い水準を維持している。
- ・ 生徒向け「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」「先生はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる」が昨年度より大きく上昇。
- ・ 生徒向け及び保護者向けの、学校の指導に関する項目の肯定率が80%を超えている。徹底したカウンセリングマインドでの指導によるもの。事前に情報を入れておき、聞くことからスタートして、その背景を考慮して説諭する方法が評価された。授業中の携帯電話の指導については、指導件数は昨年度より半減した。指導の指導法の確立により減少傾向にある。
- ・ 今年度部活動参加者は65名。人数としては昨年度より減っているが、多数の部で全国大会に出場し功績を残した。生徒向け「学校は部活動にも参加しやすいよう工夫している」の肯定率が5ポイント以上上昇。体育祭・文化祭・校外学習の満足度・肯定率もすべての項目で目標を達成した。

● 令和2年度学校経営計画及び学校評価（案）

○本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開

- ・ (1) については、将来構想チームを中心として、閉課程までの過程を明確化して必要な取組みを計画・実施することとした。
- ・ (3) については、研修報告会、教職員研修、経験の少ない教員対象の研修、参加型研修の充実を図り学校力の向上を常に求め、強化していく。

○生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と進路指導体制の充実

- ・ (1) キャリア教育の発達を促す「学びのシステム」の構築については、進路実現に向けたキャリア・ガイダンス、キャリア・カウンセリングに重点を置いて生徒の進路に対する意識を高めていく。
- ・ (2) については、「授業力向上推進チーム」を中心として「わかる授業」をテーマに生徒が主体的に取り組む授業をめざした授業研究の実施を図る。前後期各1回ずつ回数を絞って教員が参加しやすいような状態、絞った形で行う。

○生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取組み及び人権教育の確立

- ・ (1) ア. 人権教育のフィールドワークについては、中卒1年次生が募集停止により不在となるため、今年度で終了。変更はこのみである。
- ・ (2) (3) の三位一体の教育活動の展開については、令和元年度に教職員の意見で規律指導の意識改革を行ったことを受けて、来年度も授業を大切にすることを念頭にカウンセリングマインドの視点にたち毅然とした生徒指導をしていく。

● 「学校運営に関する基本的な方針」（学校経営計画のうち「めざす学校像」と「中間的目標」）について承認された

● 協議

1. 【意見】 授業者がスマホをみんなに出させ質問を随時入力することが可能で、回答は匿名でも良いというシステムを用いた学校ICT活用（ディベート）の事例を紹介したい。いつも手が上がらない生徒

から意見が出て、教員がそれをプロジェクターに映したりしていたが、改めてスマホであれば饒舌な生徒もいることに感心する。自分で意見を表現し対話したとみなすことは大事であり、これからを生きる子どもたちにとって当然必要なスキルであると教育的な観点から思った。

2. 【意見】今年小学生対象のeスポーツのイベントを計画中で、ルールのあるeスポーツに向いている子の中の何人かは支援学校で学ぶ子もいる、という話をスポンサーとしている。集中力の高さからeスポーツのプロ選手としてお金を稼ぐ方法もある。テスター（発売前のゲームをやり込んでバグを見つけ取人）という仕事もあると聞く。ゲームが好きという子どもに対して、そのような道もある。どんな職業、生き残る職業とは何かとの問いに対して、教員も私たちも含めて、大人は職業イメージがつかない。例えば、実際にY o u T u b e rに授業に来てもらい、どれだけ動画編集や企画を立てるのが苦しく、かつ毎日決まった時間に公開しないとお客さんがつかないか等の話を聞いた方がイメージが湧きやすい。
3. 【意見】アクティブラーニングは大学から始まった。先生の話が学生が聞いて写すスタイルではなく、学生に活動させ、その活動を学生に考えさせなさい、ということを大学もこの10年くらい取り組んできた。これから子どもに身に付けさせたい力として、考えたことをまとめて発表するという力はマストである。失敗から学べる環境にある子どもたちは伸びていく。むしろ失敗を恐れてやらない子どもたちの方が成長しないという研究もある。これは教員も同じだと思う。ぜひ取り組みを進めてほしい。
4. 【意見】定時制の課程Ⅰ・Ⅱ部の閉課程に伴い、Ⅰ・Ⅱ部のわかば会（同窓会）は、2年後3年後には入会者がずいぶん少なくなるのではと思う。
5. 【質問】令和元年度の学校経営計画の評価（案）で、進路未決定者の率について。評価は[△]であったが、進路未決定の生徒はどんな状況で卒業していくのか。
【回答】卒業生の半数が進学、残りのうちの半分弱くらいが就職という状況。未決定の卒業生については、縁故就職や、当面は自分で自己活動をしたいという形、そして実際に決まらずに卒業する形もある。卒業までにある程度の考えをもって卒業する生徒が多いと考える。追跡が難しいため、その後については把握しにくい。
【意見】授業の中で自分の考えを伝えることは難しいが、意外と声に出せなくても文章を書くことができる子どもたちはいる。大学生でも、まず書かせて発表させるようにしたら、それを読みながらやる子も出てくるだろうと思う。全体の前では難しくても、例えば隣の人や少数人に聞いてもらえると自信を持って喋れるようになると思う。そういうところから進めていくことも良いかと思う。
【回答】2時間連続授業の強みを生かして、感想や意見を書かせて、次の授業までに教員が意見をまとめ、次の授業で匿名として意見を返すことを多くの授業でやっている。
6. 【質問】スマホを使っている授業を行っているか。自由ではないとしても、対話ツール等としての活用はあるか。
【回答】それはない。スマホを使ってもよいと指示した場合は利用できるようにしている。リアルタイムでツールとして活用できると良いと思う。
【意見】Googleのソフトで無料のものがある。その場でアンケートに文章を入力すると、その場ですぐに先生機で回収し、全体の結果が表示できるようである。